

留学生通信

中越地震の体験

Experience Earthquake in Chuetsu



ウオン チョーン ヴイ
WONG CHOON VUI

2004年長岡技術科学大学工学部機械創造工
学科卒業

2006年長岡技術科学大学大学院修士課程機
械創造工学修了

- 主として行っている業務・研究
- ・レスキューロボット用の支援システムの開
発
- ・レスキューロボット用のインタフェースの
開発

■所属学会および主な活動

日本機械学会

■通学先

学生員, 長岡技術科学大学 大学院情報・制
御工学 博士課程

(〒940-2188 長岡市上富岡町1603-1/

E-mail: alexwong@stn.nagaokaut.ac.jp)

中越地震から2年目を迎えようとして
いる。未だに、その日の様子が鮮
明に浮かんでくる。その忘れられない
体験や感じたことを述べたいと思っ
ている。

1 地震発生の日

2004年10月23日(土曜日)の
夕方、大学の体育館で留学生の友だち
といっしょにスポーツをしていた。突
然、体育館の天井から電車の轟音のよ
うな「ごろごろ」という音が響き始め
た。皆(私も含む)がいっせいにス
ポーツをやめ、驚きの表情で体育館の
天井に目を向けた。「あれは何の音？」
と不思議に思った。とたんに、すぐ大
きな揺れが起こった。体育館のライト
も同時に切断された。その瞬間、地震
であることが分かった。出口に近い人
が外に向かって走り出した。出口から
遠くに居た私と何人かの留学生はすぐ
に近くの壁にへばりついた。揺れが止
まった途端、私たちはすぐに出口に向
かって走り出した。体育館の外の駐車
場に留学生だけでなく、日本の学生た
ち、食堂の職員の方々もいた。体育館
にいた留学生は皆無事に体育館から脱
出することができた。皆しばらくそこ
で待機した。

数分後に、また大きな揺れが始まっ
た。体がしゃがんだままでも上下に揺
れた。来日後、まだ1箇月しか経っ
てない留学生もいて、とても不安な表
情だった。大きな揺れが収まるまで
ずっとその場所で待機した。空がだん
だん暗くなり、夜で気温が下がり、体
が寒く感じられ始めた。携帯電話で近
くに居る友だちに電話を掛けようとし
たが、全く通じなかった。暗闇の中、

車のライトを頼りにしながら地震の情
報を車のラジオから聞いていた。

大学の職員の方々も大学にたどり着
き、建物内に人がいるかどうかを確か
めた。また、電気も復旧され始めた。

私は友人の誘いで、彼の車に入れて
もらい、留学生宿舎の前の駐車場でそ
のまま不安な一晚を過ごした。他の留
学生の中にも駐車場にシートを敷いて
寝た人もいたし、車の中で泊った人も
いた。

2 食料

地震からの3日間は、留学生たち
が自分たちの食料を持ち寄って(お
米、野菜など)料理をして、子供たち
に優先的に食べさせた。食堂の職員
の方々がおにぎりを作ったり、先生方
が料理を作ってくれたおかげで、温かい
食事を食べることができた。

4日目には、支援の飲料水や食料が
大学にも届いたので、待ちに待った飲
み物や食べ物はこれで大丈夫になっ
たと安心した。

3 困ったこと

トイレの水道が止まり、水流しがで
きなくなったため、トイレからすごい
においがした。水がなかったため、5
日間くらいお風呂、シャワーを浴びる
ことができなかった。被害が少ない地
域の友だちのアパートでお風呂に入ら
せてもらった。

いったん自分のアパートの様子を見
に行ったら、部屋の壁が半倒壊し、テ
レビや棚の物が床に散乱し住めない状
態になっていた(図1, 2)。もし、
地震が発生した時に部屋にいたとした



図1 部屋の様子 (1)



図2 部屋の様子 (2)

図3 長岡操車場跡仮設住宅での炊き出し状況
(ボランティア活動)

ら、私は怪我をしていたかもしれない。部屋が住めない状態だったため、近所の住民といっしょにビニールハウスで過ごした。友だちと近所のみなさんの助けて、何とか無事に過ごすことができた。

4 復旧作業

約1週間後、大学の周辺の電気、ガス、水道のライフラインが復旧し始めた。電気が使えるようになって、テレビから詳細な情報が得られた。道路の切断や家屋倒壊を見て、つくづく恐ろしかったことを思い出した。私より大変な方々が大量いることが分かった。

大学へ行く途中で作業員が道路や電気や水道の復旧作業をしていた。それは速いと感じた。コンビニやスーパーも徐々にオープンし、通常の生活に戻ったと感じた。しかし、小さな余震の揺れがしばしば起きていたため、ま

だ油断できない状態だった。

5 教訓

私は日本に来る前に、地震への対応については勉強して理解したつもりでいた。しかし、実際に体験する機会はなかった。

アパートが修復した後、部屋の品物の並び方を見直した。例えば、倒れやすいテレビは低い位置に置き、倒れやすい棚はベッドの近くに置かないことや、携帯電灯をベッドの傍に置くことにした。大事な品物（パスポートや証明書など）を一箇所にまとめておくなど実行に移した。

自分は地震に関する知識がまだ浅いと感じたので、これからさらに地震対策について知識を高め、学んで行きたいと思っている。ネット上で情報を調べたり、本屋で地震に関する本を何冊も購入した。地震に関するニュースな

どもにも日常的に関心を持ち、それらを徐々に身に付けている。日本だけでなく、世界各地で起きた地震に関する情報にも関心を持ち始めたところである。

6 感想・感謝

近所の住民の方々、大学の職員の皆さんを始め、留学生の友だちなどの助けて、そして、長岡市からの被災者に対する支援金をいただいたことにより、何とか生活ができるようになった。心から感謝をしている。

また、日本各地からのボランティアの人々や団体の支援をはじめ、住民の方々のお互いに助け合う精神は素晴らしいと感じた。

今後は、私も困った人々のために、何か役に立ちたいと思っている。現在は、社会に貢献できる研究をしながら、積極的に地域交流やボランティア活動に参加し始めたところである(図3)。